

(イ)航空障害灯の設置工事に伴う生息状況の変化

カンムリワシの営巣跡が確認されたカタフタ山、水岳及びカンムリワシの営巣は確認されていないが高利用域内に位置するタキ山東において、航空障害灯の設置工事がある。特に、カタフタ山は繁殖つがいの営巣中心域（巣の利用と安全を確保するために必要な範囲）であり、航空障害灯の設置位置は山頂部であることから、カンムリワシが最も警戒を強めるエリアへの作業員の立ち入りが生じることになる。

しかし、事業の計画検討に当たって講じた環境保全配慮として、航空障害灯の工事は人力作業を基本とすることから、カンムリワシの生息・繁殖行動の変化は小さいと予測される。

表 6-12-1(8) センサのデータセンサスによるアトリリーマッピング調査

調査日時	調査面積 (m ²)	調査密度 (個/m ²)
平成15年3月31日	1801	0.1
平成15年4月22日	1004	0.1
平成15年5月14日	1871	0.1
平成15年5月21日	1715	0.1

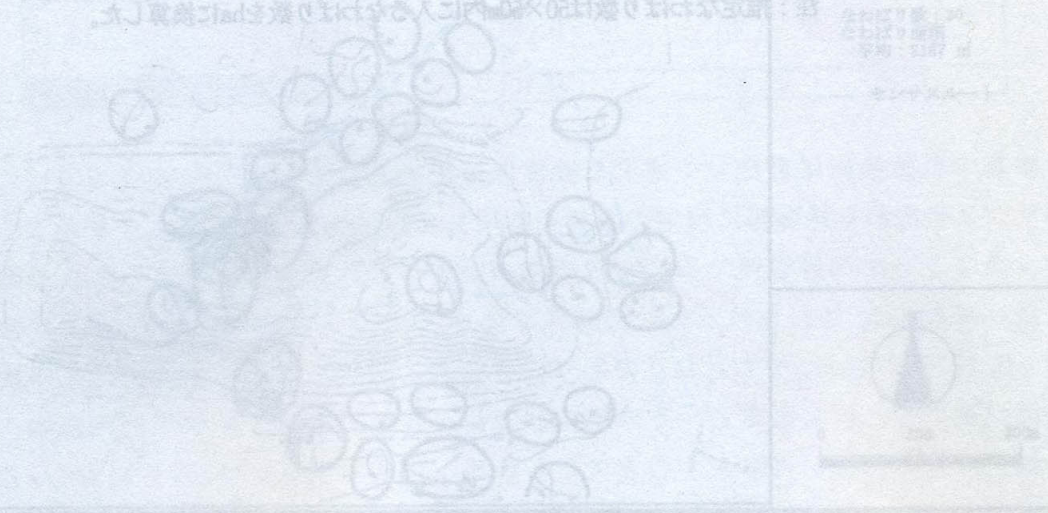


図 6-12-1(8) センサのデータセンサスによるアトリリーマッピング調査